

死亡診断書（死体検案書）

この死亡診断書（死体検案書）は、我が国の死因統計作成の資料としても用いられます。楷書で、できるだけ詳しく書いてください。

氏 名			男	生年月日	昭和 年 月 日 (生まれてから30日以内に死亡したときは生まれた時刻も書いてください)	時 分
死亡したとき	令和 年 月 日	時 分				
死亡したところ 及びその種別	死亡したところの種別	(右枠記載のうち)	1 病院 2 診療所 3 介護医療院・介護老人保健施設 4 助産所 5 老人ホーム 6 自宅 7 その他			
	死亡したところ					
	(死亡したところの種別1～5) 施設 の 名 称	()				
死 亡 の 原 因	I	(ア) 直接死因	気管支肺炎		発病（発症）又は受傷から死亡までの期間 ◆年、月、日等の単位で書いてください ただし、1日未満の場合は、時、分等の単位で書いてください (例：1年3か月、5時間20分)	不詳
		(イ) (ア) の原因				
		(ウ) (イ) の原因				
		(エ) (ウ) の原因				
	II	直接には死因に関係しないがI欄の傷病経過に影響を及ぼした傷病名等				
手術	無	部位及び主要所見	手術年月日	令和 年 月 日		
解剖	無	主要所見				
死 因 の 種 類	(右枠記載のうち)		1 病死及び自然死			
	1 病死及び自然死		不慮の外因死 【交通事故 3 転倒・転落 4 溺水 5 煙、火災及び火焰による傷害 外因死 6 窒息 7 中毒 8 その他 その他及び不詳の外因死 (9 自殺 10 他殺 11 その他及び不詳の外因) 12 不詳の死			
外 因 死 の 追 加 事 項	傷害が発生したとき	令和 年 月 日 時 分			傷害が発生したところ	大阪府
	傷害が発生したところの種別	(右枠記載のうち)	1 住居 2 工場及び建築現場 3 道路 4 その他			
	手段及び状況					
生後1年未満で 病死した場合の 追 加 事 項	出生時体重	グラム	単胎・多胎の別 1 単胎 2 多胎 (子中第 子)	妊娠週数	満 週	
	妊娠・分娩時における母体の病態又は異状		母の生年月日	前回までの妊娠の結果 出生児 人 死産児 胎 (妊娠満22週以後に限る)		
	1 無 2 有	3 不詳	昭和 年 月 日 平成			
その他特に付言すべきことがら 発見時、多量の嘔吐物があった。CT上、左右びまん性気管支肺炎。左右気管支内に液体を認めるが、誤嚥というより、痰貯留で説明できる。						
上記のとおり検案する		検案年月日	令和 年 月 日			
		本検案書発行年月日	令和 年 月 日			
医 師			印			

死亡診断書（死体検案書）

この死亡診断書（死体検案書）は、我が国の死因統計作成の資料としても用いられます。楷書で、できるだけ詳しく書いてください。

氏 名			男	生年月日	昭和 年 月 日 (生まれてから30日以内に死亡したときは生まれた時刻も書いてください)	時 分
死亡したとき	令和 年 月 日	時 分				
死亡したところ及びその種別	死亡したところの種別	(右枠記載のうち)	1 病院 2 診療所 3 介護医療院・介護老人保健施設 4 助産所 5 老人ホーム 6 自宅 7 その他			
死亡したところ	死亡したところ					
(死亡したところの種別1～5)	施設 の 名 称	()				
死 亡 の 原 因	I (ア) 直接死因	気管支肺炎			不詳	
◆I欄、II欄ともに疾患の終末期の状態としての心不全、呼吸不全等は書かないでください ◆I欄では、最も死亡に影響を与えた傷病名を医学的因果関係の順序で書いてください ◆I欄の傷病名の記載は各欄一つにしてください ただし、欄が不足する場合は(エ)欄に残りを医学的因果関係の順序で書いてください	I (イ)(ア)の原因			発病（発症）又は受傷から死亡までの期間 ◆年、月、日等の単位で書いてください ただし、1日未満の場合は、時、分等の単位で書いてください (例：1年3か月、5時間20分)		
	I (ウ)(イ)の原因					
	I (エ)(ウ)の原因					
	II 直接には死因に関係しないがI欄の傷病経過に影響を及ぼした傷病名等					
手術	無	部位及び主要所見	手術年月日		令和 年 月 日	
解剖	無	主要所見				
死 因 の 種 類	(右枠記載のうち)	1 病死及び自然死 不慮の外因死 } 交通事故 3 転倒・転落 4 溺水 5 煙、火災及び火焔による傷害 外因死 } 窒息 7 中毒 8 その他 その他及び不詳の外因死 (9 自殺 10 他殺 11 その他及び不詳の外因) 12 不詳の死				
外 因 死 の 追 加 事 項	傷害が発生したとき	令和 年 月 日 時 分	傷害が発生したところ	大阪府		
◆伝聞又は推定情報の場合でも書いてください	傷害が発生したところの種別	(右枠記載のうち)	1 住居 2 工場及び建築現場 3 道路 4 その他			
	手段及び状況					
生後1年未満で病死した場合の追加事項	出生時体重	単胎・多胎の別	妊娠週数			
	グラム	1単胎 2多胎 (子中第 子)	満 週			
	妊娠・分娩時における母体の病歴又は異状	母の生年月日	前回までの妊娠の結果			
	1無 2有	昭和 年 月 日 平成	出生児 人 死産児 胎 (妊娠満22週以後に限る)			
その他特に付言すべきことがら 2週間前から、食欲低下、衰弱、痰喀出が続いていた。救急搬送先病院の胸部X線写真により診断した。						
上記のとおり検案する		検案年月日	令和 年 月 日			
		本検案書発行年月日	令和 年 月 日			
医 師			印			

死亡診断書（死体検案書）

この死亡診断書（死体検案書）は、我が国の死因統計作成の資料としても用いられます。楷書で、できるだけ詳しく書いてください。

氏 名			男	生年月日	昭和 年 月 日	() 分
死亡したとき	令和 年 月 日	時 分				
死亡したところ 及びその種別	死亡したところの種別	(右枠記載のうち)	1 病院 2 診療所 3 介護医療院・介護老人保健施設 4 助産所 5 老人ホーム 6 自宅 7 その他			
	死亡したところ					
	(死亡したところの種別1～5) 施設 の 名 称	()				
死 亡 の 原 因	I	(ア) 直接死因	肺気腫兼肺炎		発病（発症）又は受傷から死亡までの期間 ◆年、月、日等の単位で書いてください ただし、1日未満の場合は、時、分等の単位で書いてください (例：1年3か月、5時間20分)	不詳
		(イ) (ア) の原因				
		(ウ) (イ) の原因				
		(エ) (ウ) の原因				
	II	直接には死因に関係しないがI欄の傷病経過に影響を及ぼした傷病名等				
手術	無	部位及び主要所見			手術年月日	令和 年 月 日
解剖	無	主要所見				
死 因 の 種 類	(右枠記載のうち)		1 病死及び自然死			
	1 病死及び自然死		不慮の外因死 { 交通事故 3 転倒・転落 4 溺水 5 煙、火災及び火焰による傷害 外因死 6 窒息 7 中毒 8 その他 その他及び不詳の外因死 (9 自殺 10 他殺 11 その他及び不詳の外因) 12 不詳の死 }			
外 因 死 の 追 加 事 項	傷害が発生したとき	令和 年 月 日 時 分			傷害が発生したところ	大阪府
	傷害が発生したところの種別	(右枠記載のうち)	1 住居 2 工場及び建築現場 3 道路 4 その他			
	◆ 伝聞又は推定情報の場合でも書いてください 手段及び状況					
生後1年未満で 病死した場合の 追 加 事 項	出生時体重	グラム	単胎・多胎の別 1 単胎 2 多胎 (子中第 子)	妊娠週数 満 週		
	妊娠・分娩時における母体の病態又は異状		母の生年月日	前回までの妊娠の結果		
	1 無 2 有	3 不詳	昭和 年 月 日 平成 年 月 日	出生児 人胎 死産児 (妊娠満22週以後に限る)		
その他特に付言すべきことがら 自宅酸素療法の必要な肺気腫の既往歴あり。救急搬送先病院で撮影されたCTにて診断。						
上記のとおり検案する		検案年月日	令和 年 月 日			
		本検案書発行年月日	令和 年 月 日			
医 師			印			